

## 事例Ⅱ－8 森林資源を活用した商品開発や体験型交流による地域活性化

山形県尾花沢市おほなざわの「細野の山を愛する会」は、地域に豊富に存在する森林資源を活用することで、荒廃した里山の再生と地域の魅力向上を目指す取組を進めている。

尾花沢市細野地区ほそのの森林は、かつては薪炭利用が盛んに行われ、生活に密接に関わっていたが、近年では利用が減少し、藪化やぶが進んでいた。

このような中、同会は里山の整備により伐採・搬出される木材のほか、広葉樹のイタヤカエデの樹液、山菜等の地域の森林資源の掘り起こしを積極的に行い、新たな価値創出に取り組んでいる。伐採木は薪材として活用し、イタヤカエデの樹液(メープルサップ)は収穫後、同地区の農産物加工所に無償提供され、地元婦人会が糖度60度のシロップに加工・販売している。また、採取した山菜は地区内の農家レストランに提供されている。近年は、メープルシロップや獣害対策のため収穫した柿の実(干柿)を原料とし、地元産のホップも使ったクラフトビールの商品開発・販売にも新たに取り組んでいる。

このほか、メープルサップの採取やワラビ苗の植付け体験などの活動も展開しており、海外からの観光客も含め、地区内外から多くの参加者が訪れている。体験を通じて細野地区の自然や暮らしに触れた参加者の中には、実際に同地区に移住した例もあり、地域の人口維持や活性化にもつながっている。こうした交流は、地域の魅力を発信するとともに、外部とのつながりを深める重要な機会となっている。

これらの活動は、森林資源を活かした商品開発と体験型交流を通じて、地域経済の循環とコミュニティの再生を促す取組であり、令和6年度豊かなむらづくり全国表彰事業で農林水産大臣賞を受賞するなど、持続可能な地域づくりのモデルとして今後の展開が期待される。



販売用メープルシロップと商品開発されたクラフトビール

ワラビ苗の植付け・山菜採取の体験会の様子

(写真提供：細野の山を愛する会)

### (山村地域のコミュニティの活性化)

山村地域の人口が減少し、集落周辺の里山林の手入れが滞る中、集落の維持・活性化を図るためには、地域住民や地域外関係者による里山林の整備を含めた協働活動を通じたコミュニティの活性化が必要である。また、地域資源の活用によって、山村地域やその住民と継続的かつ多様な形で関わる「関係人口」の拡大が期待されている。このため、林野庁では、山村の生活の身近にある里山林の継続的な保全管理や利用等の協働活動の取組を支援している(事例Ⅱ－9)。